

知識構成型ジグソー法を用いたポスターツアーの試み —英語授業にアクティブ・ラーニングを取り入れて—

竹中 龍範 ・ 餅 知隆*
(英語教育) (香川県立高松北高等学校)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

*761-0121 高松市牟礼町牟礼1583番地1 香川県立高松北高等学校

In Search of Active Learning in a High School English Class

Tatsunori Takenaka and Tomotaka Mochi*

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1, Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

*Kagawa Prefectural Takamatsu Kita High School, 1583-1, Mure, Mure-cho, Takamatsu 761-0121

要 旨 近年、アクティブ・ラーニングという言葉が学校教育界のキーワードとして頻繁に取り上げられている。本研究では、アクティブ・ラーニングにおいて代表的な手法である「知識構成型ジグソー法」と「ポスターツアー」を組み合わせ、協働学習を通して英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)の活動を統合的に行う授業実践モデルを構築することを目指した高校英語授業を展開し、一定の成果を得たので、その成果と課題とを考察する。

キーワード アクティブ・ラーニング 知識構成型ジグソー法 ポスターツアー
4技能統合型活動 協働学習

1 はじめに

平成21(2009)年3月に新しい高等学校学習指導要領が告示され、教科外国語の科目編成は「コミュニケーション英語基礎」「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」「英語会話」と改められてコミュニケーション重視の方向がいつそう強められた。これは、平成14年7月に戦略構想として発表され、翌15年3月に行動計画として具体化された『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』以来、陸続と発表された英語教育改革政策の一環として捉えることができよう。この平成21年告示の新学習指導要領では、「第3款 英

語に関する各科目に共通する内容等」の第4項に「英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」(文部科学省, 2009, pp.115-116)と示され、従前の学習指導要領に比して強い姿勢でコミュニケーション重視に踏み込んだ。また、これを具体的に進めるために、4技能の総合的な育成をめざした英語授業の展開が求められている(文部科学省, 2010)。

一方、中央教育審議会の教育課程部会においては次期学習指導要領の改訂に向けて議論が重ねられ、その審議のまとめが平成28年8月26日に発表されたところである(文部科学省,

2016a)。その「まとめのポイント」(p.2)には「生きる力」とは何かについて以下の資質・能力の3つの柱に沿って具体化することが求められていることが述べられている。これは、

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

というものであるが、そのためには、すなわち、「子供たちが『どのように学ぶか』に着目して、学びの質を高めていくためには、『学び』の本質として重要となる『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指した『アクティブ・ラーニング』の視点から、授業改善の取組を活性化していくことが必要」(同, p.2)と述べられている。

このアクティブ・ラーニングについては、近年、英語教育界においても様々に取り上げられ、専門誌でも「言語活動の充実とアクティブ・ラーニング」(『英語情報』2016夏号)、「授業に活かすアクティブ・ラーニング」(『英語教育』2016年8月号)などの特集が組まれている。

本稿は、高等学校の英語授業にアクティブ・ラーニングを取り入れるにはいかなる方法が可能か、また、成果を得るためにはどのような手法が妥当かを探りつつ、数年間にわたる試行錯誤を経て一定の成果を得るに至った授業実践を報告し、その成果の分析を通して今後の課題を検討することをねらいとする。

なお、本稿の1, 2, 8節と7節の一部は竹中がまとめ、3~7節は主として餅が授業実践を中心に記述して、全体を竹中が整えた。

2 英語教育とアクティブ・ラーニング

現行の学習指導要領は平成25年度より学年進行により実施されており、本年28年度は全面实施2年目に当たるが、高等学校の教育現場では、その告示時に見られた激震とも、或いは動揺とも言い得る混乱がようやく収束し、多くの教師が授業の改革に真摯に取り組んでいる。

この間、文部科学省からは英語教育の充実に向けて下記の政策が相次いで発表されてきた。

- ・平成23年7月13日「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策～英語を学ぶ意欲と使う機会の充実を通じた確かなコミュニケーション能力の育成に向けて～」
- ・平成25年12月13日「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画について」
- ・平成26年9月26日「今後の英語教育の改善・充実政策について 報告 ～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」
- ・平成27年6月5日「生徒の英語力向上推進プラン」

これと並行して進められてきた中央教育審議会における議論も、先述のごとく、その審議のまとめが発表されて次期学習指導要領のおおよその輪郭が窺えるようになった。その改訂の基本方針には、「社会に開かれた教育課程」の実現や、学習指導要領が果たすべき「学びの地図」としての役割、「カリキュラム・マネジメント」の実施と並んでアクティブ・ラーニングが挙げられている(文部科学省, 2016a, まとめポイント, pp.1-2)。

中央教育審議会においてアクティブ・ラーニングの概念が明示的に言及されたのは大学教育の質的転換を論じた文部科学省(2012)であり、その「学士課程教育の質的転換」の項に

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。(p.9)

と触れられ、その「用語集」には

教員による一方向的な講義形式の教育とは

異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学修法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。(p.37)

と概念規定がなされている。

そして、平成27年1月29日にその第1回が開催された教育課程部会教育課程企画特別部会においては、審議事項の3本の柱の一つとして、アクティブ・ラーニングによって学びを深めていく学習方法を内容と関連付けてどのように示していくべきかが諮問されている(文部科学省、2015)。こうして、次期学習指導要領においてはアクティブ・ラーニングがキー・コンセプトの一つに挙げられることになるが、これが英語教育の場合においてはどのように解釈されるであろうか。この点について、文部科学省(2016b)は、『『主体的・対話的で深い学び』の実現とは、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすることである』(p.19)とし、そのうち深い学びの過程について、

高等学校では、日常的な話題や社会問題など幅広い話題について、外国語を通じて情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする力の育成が重要になる。そのため、聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用して話したり書いたりする統合型のスピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどに主体的・協働的に取り組むことが大切である。これらの活動では中学校と同様、例えば、当該考えと理由を伝え合い、それを基にして情報や考えなどを整理して書くというように、複数の力を統合させて行うことになる。(pp.20-21)

との方針を示している。

このように、学校英語教育にアクティブ・ラーニングの考えが取り入れられようとしている今、学校現場ではすでにその取り組みが始まっており、「はじめに」でも述べたように、英語教育の専門誌上にその報告がなされている。

ここでは、高等学校における取り組みの一例として、田中他(2011)、東京大学CoREF(2016)、益川(2016)を参考に筆者(餅)が実践した「知識構成型ジグソー法」を用いた英語授業を取り上げ、これを検討する。なお、「知識構成型ジグソー法」は東京大学のCoREF(大学発教育支援コンソーシアム推進機構)が独自に開発した学習法である。

3 「即興リテリング」と「推論発問」

本活動を創案し実施するまで、以下のような2年間の指導の流れがあった。

現行の高等学校学習指導要領が施行される前年の平成24年度、文部科学省の「英語力を強化する指導改善の取組の拠点校」事業による研究指定校として、香川県では高松北高校が坂出高校とともに指定を受けた。筆者(餅)は、その高松北高校の研究主任として、筆者(竹中)及び香川県教育委員会高校教育課指導主事、香川県教育センター指導主事の指導助言の下に、「英語を使用した実際のコミュニケーションの場としての授業づくり」を目指していたが、1年の期間では十分な成果をあげられず、その後も授業改善に努めてきた。

その際、常に意識していたこととして、以下の2点があった。

- (1) いかにして生徒を家庭学習(特に音読)に向かわせるか
- (2) いかにして授業でしかできない活動を取り入れるか

結果論ではあるが、この2つのテーマは、次期学習指導要領のキーワードになるであろうアクティブ・ラーニングの「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」と関わりがある。

これらのテーマに即して用意したのは、(1)

には「即興リテリング」であり、(2)には「推論発問」だった。

即興リテリングは、筆者(餅)の創案に係るもので、家庭でしっかり音読してきた後、授業では即興で与えられたキーワードを使用してリテリングをするという手法である。リテリングには様々な方法があるが、この手法では生徒は事前にキーワードを与えられていないため、予習としてリテリング原稿を準備することができない。そのため十分に音読をしてくる必要がある。と同時に、即興で物語を構築する作業も求められる高度な活動である。なお、推論発問は田中他(2011)に基づいた。

この活動の導入後、生徒は実際に家庭で積極的に音読に取り組むようになり、即興リテリングのある授業前には、生徒たちは休み時間も音読練習に利用するという姿勢が身についた。

この活動を実施し、副産物として得られたものが2つあった。一つは、キーワードを与えてからリテリングまでに与えられた準備時間に、生徒たちが集中して真剣に準備に取り組む姿勢である。与えられたキーワードを使って一心不乱に全員が一言も発せず準備に集中している姿は、まさに「主体的な学び」を象徴していた。

もう一点は、この活動に対する生徒の自己評価に現われたところであるが、リテリングを発表した後に様々なリアクションが生徒に見られたことである。うまく話せたことで充実感を滲ませた表情や大きな歓声、また、反対に、最後まで話し終わらないうちに発表時間が終わったり、うまく話せなかったことに対してもどかしそうな表情を浮かべたり、苛立ちの声などがあちこちで発生しているのを見聞きするのは、授業観察として大変楽しく有意義な時間であった。

この活動は、最後に志願者数名が教壇に立ち、自分のリテリングを全体に披露して終了するのだが、見事なりテリングが披露された後には惜しめない拍手がクラス全体から送られ、彼らの英語学習意欲が一層高まったと感じられた。

即興リテリングは、指導と評価の一体化という点も考慮して、定期考査にも導入した。スピーキングからライティングに評価軸を転換さ

せ、キーワードを用いて英文を書かせた。

その結果、生徒は試験前にも何度も音読するようになった。この活動を続けることで、英文を書くことに苦痛を感じる生徒の数が従来より減少したと思われる。活動型の授業ではあるが、成績面でも過年度と比較して良好である。

しかし、リテリングはインタラクティブな活動と呼ぶことはできない。なぜなら話し手が聞き手に伝えるだけの活動だからである。

従ってテーマ(2)に対応するため、授業のもう一つの柱として推論発問を導入した。推論発問とは、テキスト上の情報を元に、テキスト上には直接示されていない内容を推測させる発問である。これによって多様な解釈を生み出すことが可能となり、互いに意見を交換することで「対話的な深い学び」を導くことが期待できる。

この活動を導入した結果、書き手や登場人物の思いを本文中から推測するため、生徒はより注意深く本文を読むようになった。またそこから得られた自分の考えを仲間と話し合うという作業は、従来のペアワークやグループワークにはなかった活発な意見交換をする姿を生徒間に生み出した。多様な意見を交換することで、驚いたり感心したりする言葉が教室のあちこちで飛び交った。また自分の考えを十分に伝えられないことから、もどかしく感じて更なる研鑽に励もうという意欲をもつ生徒が多く現れた。

この2つの活動を軸として2年間、生徒たちは英語学習に励んできたが、今回は更に負荷度は上がるものの、よりインタラクティブな協働学習が期待できる、高度な活動を準備した。

4 知識構成型ジグソー法によるポスターツアー

知識構成型ジグソー法とは、東京大学CoREF創案の、限られた授業時間内に協働的問題解決を実現させる学習環境のデザインである。

益川(2016)は、授業設計における4つのポイントとして、

- 1) 問いに対する解答を考えたい学習課題,
- 2) 考えるためのヒントとなる情報がある学習課題,
- 3) 自分の考えを深めたい学習活動,
- 4) 考えの変容を知りたい学習記録

をあげており、それらをうまく埋め込んでいるアクティブ・ラーニングの一例として、知識構成型ジグソー法を取り上げている。

今回実施した手法は、この知識構成型ジグソー法とポスターツアーを組み合わせたものであるが、それぞれについて説明をしておきたい。

- ・ジグソー法は、協調学習の支援方略として発展したものである。まず課題を用意して分割し、その分割した教材を各グループに配付し、それぞれのグループ（エキスパートグループ）で課題の理解、分析を行う。その後、このエキスパートグループを解体し、新たなグループ（ジグソーグループ）を再構成して、ポスターツアーでの学習を実施する。
- ・ポスターツアーは、ジグソー法の応用である。ポスターとは、模造紙などの大きな紙1枚に学習内容などをわかりやすくまとめたものである。ポスターツアーはこのポスター作成に加え、ジグソー法的なグループの再編成を行って、各担当者が発表することで、全体で全てのポスターの内容を共有する活動である。

典型的な手順は以下の通りである。

- ① 課題を用意
- ② 各グループ（エキスパートグループ）でポスターを作成
- ③ ポスターの完成
- ④ ツアーグループ（ジグソーグループ）の編成（各グループからポスターをまわるグループを再編成する）
- ⑤ ポスターツアー開始（自分のポスターにきたら説明）
- ⑥ 次のポスターへ移動（時間を区切って次のポスターへ）

また、この活動の特徴は以下の点にある。

- ・全員にプレゼンテーションの機会がある。
- ・異なるトピックをグループが担当するため、効率よく知識の獲得を行うことができる。

5 展開例

今回は高校3年生に対して、1年次に学習した英文を使用して実施した。既習の英文を再度利用した理由は、生徒たちはこの活動が初めてであり、3年生の英文を使用すると、円滑な活動が難しいと考え、負担を軽減するためである。

以下は実際の手順である。末尾の附録（学習指導案）及び資料（授業に使用したワークシート等）を参照されたい。

なお学習指導案に、1クラスを16人の編成と記載しているのは、簡略化のためである。1レッスンを4パート、4人でジグソーグループ活動を実施すると想定した方がわかりやすいためであり、実際は37人のクラスで実施した。現実には活動当日に欠席者が出て、ジグソーグループのメンバーに欠員が生じたりするので、予め5人グループの班も複数作っておき、いざという時に補充ができるよう、柔軟に対応したい。

準備物1（授業まで）

（生徒への配付物）

- ・ワークシートⅠ（資料①②）

表面：自分が担当するパートのサイトトランスレーションシート（資料①）

裏面：リテリングに使用するキーワードと関連したイラスト（資料②）

生徒は、指定時間でキーワードを用い、担当パートをリテルできるよう音読練習してくる。リテルに与えられる時間は、全英文を読む時間より短く設定されており、適当な言い換えをしなければ、時間内に内容を伝えられない仕掛けになっている。またリテルの時に生徒が利用できるのはワークシートⅡだけなので、音読を

十分にしていないと、リテルができないようになってい

準備物2（授業時）

机は予め4人1組で固めて4箇所設定する。各机上には、ポスターカード（資料⑤⑥）が配置されている。そこに各エキスパートグループのメンバーで着席しておく。（手順①）

▶ 教員の使用道具

- ・キッチンタイマー（時間管理に使用）
- ・iPad及びプロジェクターとスクリーン（生徒の作品発表等に使用）

▶ 生徒への配付物

- ・名札（自分が所属するエキスパートグループ及びポスターツアーのグループを示したもの）
- ・ストップウォッチ（リハーサル用に人数分）
- ・ワークシートⅡ（資料③④）
表面：メモ用紙（資料③）
裏面：ストーリー完成用紙（資料④）

▶ ポスターツアーに使用するもの

- ・ポスターカード（A4サイズ）（資料⑤⑥）
表面：各パートの内容を示した絵（資料⑤）
裏面：リテル用キーワード（資料⑥）

▶ 活動終了時に配付するもの

- ・オリジナルテキスト（資料⑦）
使用すべきキーワードには下線が引かれている。

展開例（詳細は指導案を参照）

1/2時間目

<導入>

（エキスパートグループでの活動 その1）

1) 手順の説明

本時の目標と実施手順の確認。

2) 表現学習

質疑応答時に有効な表現を学習。

3) 練習

ストップウォッチを使用し、最終リハーサル。

<展開>第1回ポスターツアーとライティング （ジグソーグループでの活動）

第1回ポスターツアー（手順②）

1) エキスパートグループを解体し、ジグソー

グループを編成してポスターツアーへ。ジグソーグループの構成員は、担当箇所が全員異なる任意のエキスパートから成る。

2) ポスターツアー時にはワークシートⅡと、筆記用具のみを持参、他の資料は持たせない。

3) それぞれ4つの集合場所にはポスターカードが1枚置かれているので、担当者は、ポスターカードを用いて他のメンバーに指定時間でリテルする。

4) 残りのメンバーは、聞き取った情報を資料③にメモ書きする。

5) 質問応答の時間が設けられているので、聞き取れなかった部分や疑問に思った点を英語でやりとりする。

6) 質疑応答の終了後、ジグソーグループのメンバーで次のポスターカードのある場所へ移動。次の担当者が3)～5)の活動を行う。

7) 以上を全パートが終了するまで繰り返す。（エキスパートグループでの活動 その2）

第1回ライティング（手順③）

1) ジグソーグループを解体し、再度エキスパートグループで集合する。

2) ポスターツアーで得られた情報から、物語全体を資料④に記入、完成させる。

3) メンバーと話し合う（日本語でよい）ことで、不足していた情報を補ったり、辞書を積極的に活用することで新たな表現を学習する。

<次時への指示>

リテリングでうまく伝えられなかった箇所や、質疑応答が不十分だった部分に気をつけて、リテリングを改善してくるよう促す。

なお、本活動を2時間実施する理由には、1時間（50分間）で、十分な活動時間を確保して全ての活動を終了させるのは困難だと分かったからである。また、再度ポスターツアーを実施することで、以下のようなメリットがあったことがあり、これを踏まえて2時間配当の活動とした。

- ・リテルを自己評価することで、うまく言えなかった箇所を改善しようと前向きに練習に励むきっかけが生まれた。

- ・ 1回目で聞き取れなかった情報も、2回目で正確に獲得する機会が生じた。
- ・ 十分に時間が与えられることで、辞書を活用したり、友人や教員からの支援をもらったりするなどして、自分なりに納得しながら物語を完成させるという満足感を得させることができた。

2/2時間目

<導入と準備>

(エキスパートグループでの活動 その1)

<展開>第2回ポスターツアーとライティング

(ジグソーグループでの活動)

第2回ポスターツアー

(エキスパートグループでの活動 その2)

第2回ライティング

ここまでの手順は、1時間目と同じである。ただし導入部分の活動時間を割愛することで、以下の活動時間を確保する。

<オリジナル英文の確認と全体での振り返り>

ライティング活動終了後、オリジナルのスク립トを全員に配付して、自分たちが書き上げた英文と比べさせる。

また、この段階では、生徒の英文はほぼ完成しているので、机間指導中に優秀作品や代表的な誤答例のある作品をiPadで撮影し、スクリーンに映して全体に見せることで、気づきを促すことが期待できる。

6 生徒の作例と感想

1) テキスト原文と生徒の作例

この活動を行わせた成果を示すために、これに用いた英文の原文と、それを元に生徒が復元した例とを以下に掲出する。

【原文 (キーワードに下線)】

In 1859, a samurai was visiting Yokohama. It was a special place. It was one of the few ports in Japan open to foreign trade. A lot of foreigners came there.

That samurai was good at speaking Dutch. That was the most popular foreign language

in Japan then. In Yokohama, he tried to talk with foreigners. But he had a lot of difficulty. Nobody understood him. He wrote, "In Yokohama, foreigners did not understand me at all. I also could not read signs. Then I realized that they were English words."

He discovered something surprising. Almost all Europeans there spoke English. He thought he had to learn it, and he wanted to learn it. The samurai was Fukuzawa Yukichi.

【生徒が復元した英文(誤りを含め原文のまま)】

In 1859 A samurai visited Yokohama. It was one of ports open for foreign trade. He was good at speaking Dutch, so he tried to speak foreigners, but it was difficult. Many of them spoke English. He thought he had to study English. His name was Fukuzawa Yukichi.

この生徒のように、キーワードを使用できていなくても、大筋は掴んでいた生徒が多数いた点は興味深い。

2) 本活動に対する感想

本活動を2クラスに複数回実践した結果、生徒に主体的かつ協働的な深い学びの作業を行わせるという目標がかなり達成されている手応えが得られた。それを生徒の視点からも確認したかったため、1クラス(37名)に対して自由記述で感想を書かせた。

以下はその抜粋である。概ね好意的にこの活動を受け入れたようだが、その反面、英語運用能力が高くない生徒にとっては、本活動の複雑な手順が負担に感じられたようである。

【生徒の感想より抜粋】

▶ 好ましい評価コメント

- ・ 英語を話す、聞く、書くなど一度にいろんな活動ができるので身になると思った。
- ・ 準備するのは大変だったけど、達成感がすごくあって良かったです。また簡単な英文からチャレンジしたいと思います！

- ・メモをもとに英文を作るのは難しかったけれど、やりがいがありました。
 - ・とても良く頭を使った。
 - ・面白い授業でした。聞き取りがあまりできないことが改めてよくわかりました。
 - ・自分が話を覚えられていないと他の生徒が困るので、できるだけ覚えようという気持ちになれた。良かったと思う。
 - ・話を聞きながらメモするのは大変だったけど、力になりそうだった。
 - ・話の内容が分かってもそれを英語で書いてまとめることはとても難しかったです。
 - ・従来のリテリング〔2年次までの即興リテリング〕ではなく、皆で英語で相談し合いながら足りない部分を補う活動だったので、表現に苦労した。でも言い換えが勉強できた。
 - ・書いてみると、綴りがあやふやであることに気づき、きちんと覚えねばと思いました。
 - ・話を聞き取ってまとめるのが難しかった。1年生の教材だったから良かったが、2年生の英文だと追いつかないかもしれない。
 - ・このグループ活動は新鮮で楽しかったです。
 - ・自分の英文を要約する力と、リスニング力も測れるので良かった。
 - ・発想が独創的で餅先生らしい授業でした。
 - ・非常に難しかった。2回目の方が内容を理解しやすかった。ただ書く時間が短かった。
 - ・1回習っていても時間が経つと内容を忘れていた。復習の大切さを感じた。
 - ・自分が上手に伝えないと他の人が困るという責任感が感じられて、いつもよりリテルがうまくできたと思う。
- ▶ 改善を求めるコメント
- ・2回目は集中力が落ちる。
 - ・もっとメモを取る時間を作ってくれないと、活動が間に合わないときがあった。
 - ・ポスターツアアのグループ活動は全てパート1から始めた方が良い。途中から始まると話がさっぱりわからなくなる。
- ▶ その他
- ・知らない文でやると面白いと思った。
 - ・もっと難しい英文でもやってみたいです。

- ・既習の内容であったにも関わらず、リテルするのは簡単ではなかった。未読のものだとさらに困難になると思う。
 - ・内容を聞き取り、それをまとめ直すことの方が、伝える作業よりも大変だと思った。
- これらの感想から読み取れることは、生徒が自らの学習を振り返り、それをメタ認知的に分析していることである。これは自らの学びを深めることにつながる、学習成立上の重要な要因であり、アクティブ・ラーニングへの第一歩であると言うことができよう。

7 分析と考察

この節では観点を分けて本活動を分析し、考察してみたい。まず、本活動の優れているところとしては次の点が挙げられる。

1) 4技能を統合した主体的な活動である。

聞く、話す、読む、書くの4技能を統合した活動であり、そのことによる成果は学習指導要領の求めるところに合致するものであるが、これを技能ごとに見てみると、次のような長所が挙げられる。

【読むこと】

- ・この活動は家庭学習となる。従って授業時に時間を設ける必要がない。生徒は担当パートを、指定時間でキーワードを用いてリテルできるようにすることが求められる。もし自分が十分に話せないと他の生徒に迷惑がかかるというプレッシャーがあるため、生徒は内容を理解しながら音読練習をしていく。家庭での音読学習としては十分な負荷であると思う。これは「何回（または何分）音読してきなさい」のような回数や時間による量的課題ではなく、各個人ができるようになるまで取り組まなければならない質的課題である。

【話すこと】

- ・生徒はポスターを見せながら、リテリングというプレゼンテーション活動を、時間内で他のメンバーにうまく伝えなければならない。十分に練習をしていないと緘黙する場面が生じたり、全てのキーワードを使用しないうち

に発表時間が終わってしまう。またキーワードしか見ることが許されないため、即興性も求められる。キーワードにはその課で習得すべき文法項目も含まれており、「Can-Do」による達成評価も容易である。

- ・リテリング後には、質疑応答の時間が設けられている。英語でやり取りすることで、不足していた情報を協働して補完することが可能である。

【聞くこと】

- ・ポスターツアーの際、生徒は自分の担当以外のパートを聞いてメモを取ることが求められる。また聞き取れなかった部分やもっと深く尋ねたい点について、質疑応答をすることで物語のより正確な構築を目指す。

【書くこと】

- ・ポスターツアー後は、物語全体を復元する作業がある。この時、生徒は入手した情報を用いて、自由に自分だけの物語を創りあげる。この活動では、辞書を積極的に活用することや、教員や周囲のメンバーに相談することで、新たな表現を習得することも可能である。

2) 協働学習である。

学習者同士がお互いに学び合い、励ましあいながら目標に向かって切磋琢磨しようという点で、この活動では以下のことが期待できる。

- ・参加者全員に発表の機会が与えられている。これは各自が責任を持って活動することが必要であることを意味する。なぜなら自分がしっかりと準備して発表しなければ、他のメンバーに迷惑がかかるというピアプレッシャーが働くため、活動に消極的な生徒の逃げ得が生じないからである。と同時に、うまく言えなくても、その後の質疑応答で、不足している情報を補完できるので、安心感もある。
- ・ポスターツアー後、エキスパートグループでのライティング活動の際、他のメンバーと持ち寄った情報を交換する（ピアサポート）ことで、より正確な情報を獲得できる。また新たな表現を教わることで、物語を更に豊かなものにできる。

3) インタラクティブな活動である。

リテリングの後に質疑応答の時間が設けられているが、その理由は以下の通りである。

- ・聞き手の立場から
 - うまく聞き取れなかった部分や、疑問が生じた部分について、話し手に質問することで、問題の解決を図る。
- ・話し手の立場から
 - 質問に答えることで、うまく説明できなかった部分や、自分では気づかなかった点などを、補足説明することができる。

4) 深い学びが可能である。

- ・リテリングというプレゼンテーション活動には制限時間が設定されているため、必ず適切な言い換えが求められる。加えて、リテルは指定のキーワードを用いなければならないため、自由度が制限されている。このキーワードのおかげで、話す内容が一定に保たれ、話者による極端に逸脱した物語になることを防いだり、緘黙したりすることなく、メンバーにある程度の内容を伝達することが担保されている。
- ・聞く活動では、リテルを注意深く聞き取るだけではなく、聞き取れなかった部分も前後関係から推測して意味を掴むことも求められる。
- ・ライティングによる物語の復元活動では、積極的に辞書を活用することが期待できる。また、机間指導中の教員に助言を求めることでも適切な表現を習得することができる。
- ・全体で優れた作品を鑑賞して、他者の多様な表現を学んだり、よくある間違いについて注意を喚起したりすることも可能である。

次に課題であるが、これについては次の点を挙げることができる。

- ・益川（2016）が述べるように、「『協調的な問題解決活動を通じた知識構成』をしたくなる学習環境を教師が準備することが重要で」とすると、アクティブ・ラーニングでとられる<課題設定—情報収集—討論—解決案—

発信」というサイクルのどの段階で、どこまでを生徒自身に委ねるかという問題が検討されねばならない。今回は学習負担への配慮から、2年前のものとは言え、既習の題材によって内容が構成されたが、教科書教材を基に、その内容を拡張し、発展させるような題材の選定までを生徒（グループ）に任せるかが検討されてよい。

- ・言語はコミュニケーションの道具であると言われるが、英語という道具の使い方を学ぶ部分と、その道具を使って何をするかの部分に分けて、それぞれの学習のあり方を明確にしておく必要がある。アクティブ・ラーニングは、言わば後者の視点からの発想であり、英語は前者の側面をも有する教科・科目であることが軽んじられることがあれば、アクティブ・ラーニングの名の下に行われる取り組み自体が脆弱なものとなる恐れがある。

8 おわりに

アクティブ・ラーニングは、本来、大学の単位は授業と授業外の学習時間の総和に対して与えられるものであるにも関わらず、これが実質的に機能していないということ、講義型の知識注入式授業では学習内容が定着し難いということから、学生の主体的な学習活動を求めるという方向転換のために提唱されたものである。それが広く小・中・高等学校に降ろされようとしている今、その趣旨を生かすためには、何が求められているのかを意識しつつ、学校現場ではどこまでができて、どこから先は難しいということを提言していくことも必要である。

本研究における取り組みは、その一つの試みであるが、全教科が一斉にアクティブ・ラーニングを始めた際には、生徒の学習量などの点から軌道修正が求められることも考えられる。その修正が小幅なものにとどまるか、或いは大幅なものとなるかは予測し難い。他教科の教員でアクティブ・ラーニングに関心を持つ人たちとも連携、協同しつつ、英語科としては何が、どこまでできるかを追究していくことが求められ

ていると言えよう。

参考文献

- 田中武夫・紺渡弘幸・島田勝正（2011）『推論発問を取り入れた英語リーディング指導—深い読みを促す英語授業—』（三省堂，2011）
- 東京大学CoREF（2016）「知識構成型ジグソー法」2016年4月25日検索，<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>
- 益川弘如（2016）「アクティブ・ラーニング基本のき 第2回 学習環境のデザイン」『英語教育』65巻2号，p.68.
- 文部科学省（2003）『「英語が使える日本人」の育成のための行動計画』（文部科学省，平成15）2003年4月15日検索，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/04031601/005.pdf
- _____（2009）『高等学校学習指導要領』（東山書房，平成21）
- _____（2010）『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（開隆堂出版，平成22）
- _____（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（[中央教育審議会] 答申）」（文部科学省，平成24）2016年7月15日検索，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo0/toushin/1325047.htm
- _____（2015）「教育課程部会 教育課程企画特別部会 議事録」2016年10月7日検索，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryu/1355912.htm
- _____（2016a）「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」（文部科学省，平成28）2016年10月7日検索，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1377051.htm
- _____（2016b）「外国語ワーキンググループの審議の取りまとめについて（報告）」（文部科学省，平成28）2016年10月7日検索，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/058/sonota/1377056.htm

[附録]

外国語科（英語）学習指導案（コミュニケーション英語Ⅲ）

香川県立高松北高等学校
指導者 教諭 餅 知隆

- 1 日時 平成28年5月14日（土）12:20～13:10
- 2 場所 3年2組HR教室
- 3 学級 3年2組（男子8名・女子8名，計16名）
- 4 生徒観 文理混合の選抜クラスの一つ。ペア活動等，積極的に授業に参加する生徒が多いが，英語に苦手意識がある生徒も少なくない。

5 単元 Lesson 1 Samurai and English
教科書 *ELEMENT English Communication I.* (Keirinkan)

- 6 単元観
- (1) 福沢諭吉が英語を学ぶに至った経緯，学習方法，そしてアメリカでの体験から学んだことについて理解する。
 - (2) 現在完了形，受動態を正しく理解し，話したり，書いたりすることができる。

7 単元の目標

- 〔目標〕① 英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。
- ② 4技能（読む・聞く・話す・書く）を駆使し，グループで協力しあうことで，各自が物語を構築する。

8 評価規準（以下は一例）

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
[S] うまく言えないことがあっても，既知の語句や表現を用いるなどして情報や考えなどを伝えている。	[W] キーワードを適切に用いて，要点が明確な文章を書くことができる。	[L] 出来事や物語についての説明を聞いて，重要な語句などを手掛かりにして概要や要点を理解することができる。	[R] 現在完了形，受動態についての知識を身につけている。

9 指導と評価の計画

時	ねらい	評価（方法）
1	ジグソー法を用いたポスターツアー（1回目）を実施。全員が自分のパートをグループメンバーに説明した後，ストーリー全体を完成させる。	観察及びワークシート
2	ジグソー法を用いたポスターツアー（2回目）を実施。前回，説明または理解不十分だった箇所を補完し，ストーリー全体を完成させる。	観察及びワークシート

10 準備物 ワークシート，ICT機器，キッチンタイマー，名札，ストップウォッチ（生徒の人数分）等

11 指導と評価の計画（1/2時間目）

	学習の内容	生徒の活動	指導上の留意点	評価規準との関連	評価方法
導入と準備 (9)	①手順の説明 ②会話表現学習 ③練習	・教師の指示を的確に理解する。 ・質疑応答に便利な表現を習得する。 ・ストップウォッチを使用しリテリングの練習をする。	・ICT機器等を用いて手順を端的に説明する。	①	観察
展開 (40)	①第1回ポスターツアー (30) ②第1回ライティング (10)	・ポスターツアーの実施。 ・グループのメンバーと協力しあい、物語全体の再生に努める。 ・積極的に辞書を活用する。	・英語で円滑に活動できているか確認し、必要に応じて支援する。 ・机間指導	③	観察
確認 (1)	確認と復習	・うまく伝えられなかった箇所や聞き取れなかった部分を、次回までの課題とする。	・代表的な誤答例等を撮影、プロジェクターに映して共有する。		

指導と評価の計画（2/2時間目）

	学習の内容	生徒の活動	指導上の留意点	評価規準との関連	評価方法
準備 (5)	1/2と同じ（「①手順の説明」は省く）				
展開 (42)	①第2回ポスターツアー (30) ②第2回ライティング (12)	・ポスターツアーの実施。 ・積極的に辞書を活用する。 ・グループメンバーと協力しあい、より精度の高い物語の再生に努める。	・英語で円滑に活動できているか確認し、必要に応じて支援する。 ・机間指導	④ ②	観察
まとめ (3)	確認と振り返り	・配付される原文（資料⑦）と比較して、自分の書いた英文がどの程度正しく再生していたかを確認する。	・優秀な作品はプロジェクターに映して共有する。 ・ワークシートは回収する。	②④	評価ループワークシート（後日）を則

Lesson 1 Samurai and English

Part 1

- In 1859, / a samurai was visiting Yokohama. // It was a special place. // It was one of the few ports in Japan / open to foreign trade. // A lot of foreigners came there. //

- That samurai was good at speaking Dutch. // That was the most popular foreign language / in Japan then. // In Yokohama, / he tried to talk with foreigners. // But he had a lot of difficulty. // Nobody understood him. // He wrote, / "In Yokohama, / foreigners did not understand me at all. / I also could not read signs. / Then I realized / that they were English words." //

- Almost all Europeans there / spoke English. // He thought he had to learn it, / and he wanted to learn it. // The samurai was Fukuzawa Yukichi. //

1859年

1人の侍が横浜を訪れていた。

そこは特別な場所だった。

横浜は、日本の数少ない港のうちの1つだった

外国との貿易に開放された。

多くの外国人がそこにやって来ていた。

その侍は、オランダ語を話すのが得意だった。

オランダ語は最も人気のある外国語だった

当時の日本では、

横浜で

彼は外国人に話しかけようとした。

しかし、彼はとても苦労した。

だれも彼の話うことを理解してくれなかったのだ。

彼はこう書いている

「横浜では

何ひとづつ私の言っていることを外国人に理解してもらえなかった。

看板も読めなかった。

そのとき私は、気づいたのだ

その看板が英語だということに。」

彼は驚くべきことに気づいた。

そこにはほとんどすべてのヨーロッパ人が

英語を話していたことに。

彼は、自分も英語を学ぶ必要があると思った

そしてまた、学びたいと思った。

その侍の名は、福澤諭吉といった。

Notes Write down your key phrases in your box. Take notes while you are on the tour.

Part 1	
Part 2	
Part 3	
Part 4	





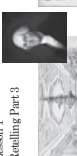



Name()

資料③ ワークシートⅡ (表面)
(ポスターツアアのノートテイキング用)

Construct the Story.

Part 1	
Part 2	
Part 3	
Part 4	

Name()

Lesson 1 Story Retelling	[Keywords]
<p>Lesson 1 Retelling Part 1</p>  	<p>Yokohama ports open to foreign trade have a lot of difficulty signs English words almost all Europeans</p>
<p>Lesson 1 Retelling Part 2</p>  	<p>some friends to study English find teachers how to pronounce words the first official Japanese visit</p>
<p>Lesson 1 Retelling Part 3</p>  	<p>George Washington's descendants Tokugawa Iyemasa hereditary democracy choose their president its real meaning</p>
<p>Lesson 1 Retelling Part 4</p>  	<p>a tool a hammer build a house learn better through experience the next era the samurai way</p>

Class Number Name

資料② ワークシートⅠ (裏面)
(各パートのピクチャーとキーワードズ)

資料① ワークシートⅠ (表面)
(サイトトランスレーションシート)

資料④ ワークシートⅡ (裏面)
(ストーリーを完成させる用紙)

Lesson 1 Samurai and English

Part 1

- 1] In 1859, a samurai was visiting Yokohama. It was a special place. It was one of the few ports in Japan open to foreign trade. A lot of foreigners came there.
- 2] That samurai was good at speaking Dutch. That was the most popular foreign language in Japan then. In Yokohama, he tried to talk with foreigners. But he had a lot of difficulty. Nobody understood him. He wrote, "In Yokohama, foreigners did not understand me at all. I also could not read signs. Then I realized that they were English words."
- 3] He discovered something surprising. Almost all Europeans there spoke English. He thought he had to learn it, and he wanted to learn it. The samurai was Fukuzawa Yukichi.

Part 2

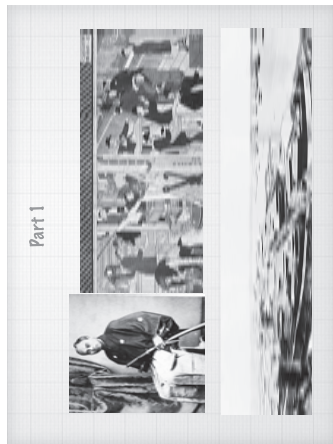
- 4] At first, he found English difficult. However, he was eager to learn it, so he did two things. First, he asked some friends to study English with him. He thought, he could learn better with his friends. One samurai, Harada Keisaku, got interested in learning. They started to study together. Second, he tried to find "teachers." When he heard that someone could speak English, he went to meet them. He learned how to pronounce words from them. He practiced again and again. At last he became good at English.
- 5] One day, he heard that the ship Kanrin maru was going to the US. It was the first official Japanese visit. He was able to get on it. He was really excited.

Part 3

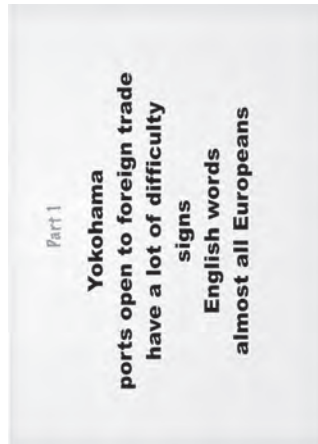
- 6] Fukuzawa came to the US. Everything was new and fascinating. One day, he asked someone about George Washington's descendants. The man said, "I don't know. But I heard that one of his descendants married someone."
- 7] Fukuzawa was surprised. He thought George Washington was like Tokugawa Iyeyasu. In Japan, the shogun's position was hereditary. Everybody knew about their descendants. On the other hand, Americans chose their president by themselves. After his term was up, most people didn't know about his descendants. Fukuzawa already knew the word "democracy." However, he understood its real meaning through this experience.

Part 4

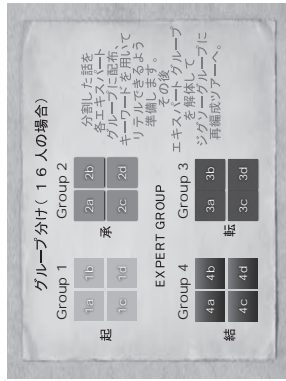
- 8] Fukuzawa wrote, "It is not good to learn only from words. Language is a tool. It is like a hammer when you build a house." He also said, "You can learn better through experience." When you need to know a language, you can learn a lot from books. However, it is not enough. He believed you also need experiences.
- 9] A lot of samurai studied English hard. They read English books. They learned a lot from them, but they learned the real meaning of things through their experiences. With this knowledge, they led Japan into the next era.
- 10] After more than a hundred years, we are still studying English. How are you studying it? We can



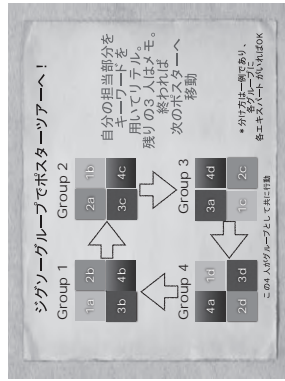
資料⑤ ポスターカード (表面)
(各パートを語る時のヒントとなる)



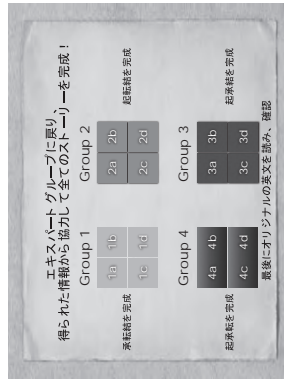
資料⑥ ポスターカード (裏面)
(各パートのキーワードが書かれている)



手順① グループ分け



手順② ジゴングroupでポスターツアーへ



手順③ エクスパートグループに戻り、ストーリーを完成